第３回　小平市まち・ひと・しごと創生総合戦略
推進委員会 資料３ 平成２７年１０月２９日（木）

小平市人口ビジョンについて

１．小平市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会（以下「推進委員会」という。）第１回目のおさらい

○小平市は社会増減（転出・転入）がほぼ横ばいで推移しており、自然増減数は出生数が死亡数を上回る状態から均衡状態へと遷移しつつある。

○合計特殊出生率は全国平均より低水準であるが、東京都平均あるいは近隣自治体と比較すると高い水準にある。

○大学が多いこともあって若い世代の転入超過の大きいことが小平市の特徴であるが、町田市などと比べると、ファミリー層に十分に選ばれてはいないことも推察される。

○転出入の約３割が近隣市間で行われており、西東京市・小金井市・武蔵野市等からの転入超過が見られる一方で、東大和市・東久留米市・武蔵村山市への転出超過が見られる。また、東京都２３区・さいたま市・横浜市などへも転出超過傾向が見られるが、杉並区や練馬区などからは転入超過である。なお、東京２３区については、２０歳台で大幅な転出超過がある一方で、１４歳未満及び６０歳以上の世代では転入超過傾向である。

○全国的なトレンドと同様、１世帯当たりの構成員が減少し、高齢者単独世帯が増加している。

○国のワークシート（純移動率が今後一定程度縮小する前提）に基づいた人口推計の場合、２０６０年時点で小平市の総人口は１４万人を切る推計となる。

○小平市は社会増減が均衡状態で推移しているため、今後の人口動向に与える要因としては、「自然増減の影響度 ＞ 社会増減の影響度」となる。

２．小平市人口ビジョン等策定のための市民意識アンケートの結果（速報）について

アンケートの詳細は別紙資料２を参照。

＜市民アンケートの概要＞

アンケート項目	対象	配布方法	配布数	回収数	回収率
結婚・出産に関する意識調査	22～39歳で、かつ、同一世帯に子どもがいないと思われる世帯	郵送	500	82	16.40%
子育てに関する意識調査	小学校3年生以下の子どもを持つ保護者	郵送	500	197	39.40%
進路等希望意識調査	小平市に住む18～21歳の方	郵送	400	95	23.75%
定住・移住に関する意識調査	小平市に転入後6カ月～2年の方	郵送	550	171	31.09%
	小平市に5年以上住んでいる方	郵送	550	150	27.27%
	転出する方	手交	－	100	－
		計	2500	795	

（1）結婚・出産に関する意識調査について

○子どものいない方を対象として調査を行っているが、既婚者・未婚者ともに２人以上の子どもを希望している方が多かった。

○独身の方を対象とした設問において、独身生活の利点として「行動や生き方が自由」（７９．０％)、「金銭的な自由度」（４５．２％）を挙げる回答が多かった。また、結婚を考えたときに気になる点としては「お金が自由に使えるか」（６６．２％)、「仕事（または学業）の時間を自由に取れるか」（３７．８％）という回答が多かった。

○同じく、独身の方を対象とした設問において、現在独身である主な理由として、「適当な相手にまだめぐり会わないから」が５２．７％と最も多く、次いで「結婚生活を成り立たせる経済力がないから」が３２．４％と多かった。

○男性におけるパートナーに求める生き方として、出産後の共働きを希望する声が多く、また男性が抱く結婚後の生き方としては「土日や休日は子どもの世話をするなど、無理のない範囲で家事や子育てを行いたい」が４３．３％で最も多かった。

☆結婚後の余暇、趣味、お金の自由度が気がかりと考えているという点で、国立社会保障・人口問題研究所が行っている出生動向基本調査（以下、「社人研調査」という。）の結果と一致しており、仕事と生活の調和した社会の実現が求められる。

☆結婚相手との「出会い」がハードルとなっていることも確認できた。なお、社人研調査によれば、夫婦が知り合ったきっかけとしては職場、友人や兄弟、学校を通じた出会いが７割を占めている。

☆女性が子育てをしながら働くことができる環境づくり、子育てや家事に一定の関心を持っている男性への支援が課題である。

(2)子育てに関する意識調査について

○小学校３年生以下の子どもを持つ保護者を対象に調査を行い、子どもの人数における理想と現実について、概ね１名程度の差が生じており、理想的な子どもの数を「３人」と答えた方も４２．１％いた。

○理想の子どもの数を持つうえでの障壁としては、「子育てや教育にお金がかかり過ぎるから」（５５．８％)、「年齢や健康上の理由」（５１．９％）という回答が多かった。

○子育ての場として不足しているものとしては「遊び場の充実度（公園・児童館など)」が３６．０％、「治安・交通安全等の充実度（防犯カメラ、こども１１０番の家、スクールゾーン、歩道橋など)」が３３．１％、「教育サービスの充実度（各種習い事施設の量やアクセスなど)」が３２．４％と多かった。

☆理想と現実との差である、「もう１人」を産み育てるための支援が必要である。

☆理想の子ども数を持たない要因として、経済的負担の他に、年齢や健康上の理由の割合が高い。経済的な支援のみならず、出産前から出産後の支援体制の充実なども求められる。

☆子どもが安心して過ごせる生活環境や教育環境の充実が求められている。

(3)進路等希望意識調査について

○１８歳から２１歳の方を対象に調査を行った。平日、休日の主な活動範囲として「主に都心部（２３区）へ行く」という回答が最も多く、その一方で、生まれ育った小平市への愛着も感じられ、小平市への「愛着がある」と８３．２％が回答している。

○就職・転職の際の住居については「現在の住居から通うつもりである」が５７．０％という回答が最も多かったが、「市外へ引っ越すつもりである」という回答も３６．０％あり、就職・転職を機に市外への転出があることが伺える。また、引っ越し先の希望としては「都心部（２３区)」が３５．５％と最も多く、それを選んだ理由としては５１．６％が「通勤に便利なため」としている。

☆小平市で育った学生などは、就職を機会として利便性の高い地域などへ転居する傾向が伺えるが、小平市への愛着も見られることから定住が期待できる。

(4)定住・移住に関する意識調査について(転入者対象)

○転入して６カ月～２年以内の方を対象に調査を行った。転入のきっかけとしては「ご自身の結婚・出産など」（２２．２％)、「マイホームの購入」（２２．２％)、「ご自身の就職、転職、転勤」（１６．４％）という回答が多く、小平市を選んだ理由としては「通勤に便利なため」（３４．５％)、「自然環境が良いため」（３２．７％)、「親族がいるため」（２８．１％)、「住宅価格（家賃）や設備等の住宅環境が良いため」（２６．９％）などの回答が多かった。

○暮らしの満足度としては、「上・下水道、ガスなどの都市基盤が充実している」「工場や店舗からの騒音、振動が少ない」「生産緑地や宅地化農地などが保全されている」「雑木林や屋敷林などの緑が保全されている」などの満足度が高い一方で、「駅周辺が商業地として形成されている」「駅周辺や幹線道路沿いの魅力ある景観づくりがなされている」「ユニバーサルデザインに配慮したまちである」などの満足度は低かった。

○関心のある地域活動としては「子育て支援」（４２．１％)、「趣味サークル」（３５．１％)、「地域のまちづくり・イベントづくり」（３２．２％）などの回答が多く、また、利用したことのある公共施設としては「都立小金井公園」（７３．１％）という回答が他を大きく上回っていた。

(5)定住・移住に関する意識調査について(定住者対象)

○市内の居住年数が５年以上の方を対象に調査を行った。「できれば小平市以外の場所に移りたい（移る計画がある)」と回答した方は１３．３％と低く、地方への移住の意向などは見られなかった。

○暮らしの満足度としては、「上・下水道、ガスなどの都市基盤が充実している」「工場や店舗からの騒音、振動が少ない」「生産緑地や宅地化農地などが保全されている」「用水が保全されている」などの満足度が高い一方で、「駅周辺が商業地として形成されてい

る」「駅周辺や幹線道路沿いの魅力ある景観づくりがなされている」「ユニバーサルデザインに配慮されたまちである」などの満足度は低かった。

○小平市をより良くするために必要なこととしては「医療や福祉の充実」が３５．３％と最も多く、次いで「防犯・防災など安全・安心なまちづくりの推進」が３４．０％と多かった。

○関心のある地域活動としては「子育て支援」（３６．０％）、「趣味サークル」（３４．０％）、「環境保護・保全」（３４．０％）、「地域のまちづくり・イベントづくり」（３２．０％）などの回答が多く、また、利用したことのある公共施設としては「都立小金井公園」（８８．７％）、「小平市民文化会館（ルネこだいら）」（７５．３％）、という回答が多かった。

（6）定住・移住に関する意識調査について（転出者対象）

○転出者を対象に窓口にて手交で調査を行った。回答者の４４％が２０歳台、２６％が３０歳代であった。

○回答者の約３分の２が「民間賃貸住宅」もしくは「社宅・官舎・寮」に居住しており、また、小平市の通算居住年数については４５．０％が「５年未満」であった。

○転出のきっかけとしては「ご自身の就職・転職・転勤」が４３％と最も多く、また、転出先を選んだ理由としては「通勤に便利なため」（４３．０％）「親族がいるため」（２５．０％）「日常の買い物に便利なため」（２１．０％）などの回答が多かった。

○小平市の住みやすいところとしては「自然環境が良いところ」（５２．０％）「生活環境が良いところ（騒音等がない）」（４２．０％）という回答が多く、小平市の住みにくいところとしては「通勤に便利なところ」（２３．０％）「レジャー・娯楽施設等の楽しむ場所が充実しているところ」（２２．０％）「日常の買い物が便利なところ」（２０．０％）などの回答が多かった。

＜定住・移住に関する意識調査について＞

☆農地など緑が多く、閑静な住宅環境であることが小平市の長所であり、一方で、駅周辺における賑わい、駅周辺・幹線道路沿いなどにおける景観の良さについては課題がある。

☆農地や公園など緑の空間を活かした施策や、医療・福祉・防災・防犯など健康で安心・安全に暮らせるための施策が定住化のために有効である。

☆国から示されているような地方への移住意向について、有意な結果は見られなかった。

☆地域活動への関心として「子育て支援」や「地域のまちづくり・イベントづくり」を選んだ方が多く、市民参加の促進の可能性を持つ分野と考えられる。

３. 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察について（案）

国が作成した「地方人口ビジョンの策定のための手引き」（第１回推進委員会資料４）に基づき行う、人口の変化が将来の地域住民の生活や地域経済、地方行政に与える影響についての分析又は考察は次のとおり。

（1）社会保障等の財政需要が増大し、税収等は減少する

後期高齢者の増加に伴って医療や介護などの社会保障費財源が増大するともに、１人当たりの保険料（税）の負担が上昇することが見込まれる。また、その一方で、生産年齢人口の減少に伴って市民税等の収入減少が見込まれる。

社会保障費を抑制し、税収を増加させるための方策が必要となる。

（2）公共施設の維持管理・更新等が課題となる

小平市の公共施設は、急激に人口が増加した１９６０年代から１９７０年代にかけて集中して整備し、１９８０年代以降も市役所（市庁舎）や市民文化会館（ルネこだいら）など大規模な施設を建設し、２０１３年(平成２５年)現在で小規模なもの（５０㎡以下）を除き１８０の公共施設がある。少子高齢化や人口の減少に伴う税収の減少などに対応した公共施設の維持管理・更新が課題となる。

（3）地域における産業の規模が縮小するとともに、人材の不足などの影響が生じる

人口の減少や後継者不在による商店会、農業、その他企業の撤退・廃業などに伴って産業の規模が縮小し、市民の利便性も低下することが見込まれる。また、保育士、看護師や介護職など地域において必要な仕事における人材も不足することが懸念される。地域におけるしごとづくりと、必要なサービスの人材の確保が課題となる。

（4）人口の減少や単身高齢者世帯の増加などに伴って、地域における良好な生活環境の維持が課題となる。

単身世帯高齢者などの増加に伴って、買い物など地域において自立した生活を行う上で困難が生じる方も増えることが見込まれる。また、人口の減少や住宅の供給過剰に伴って空き家等が増加し、安全・環境・防犯などの観点で良好な環境を損なうおそれがある。

地域ボランティア活動の促進やコミュニティビジネス創業の支援、空き家の対策などが課題となる。

４. 人口の将来展望について（案）

（1）小平市独自の推計による見通し

①小平市の総人口は○○○○年頃から減少段階に突入する。

②少子高齢化が進み人口は緩やかなカーブを描いて減少し、２０６０年には人口が○○万人を割り込むおそれがある。

（2）目指すべき将来の方向

① 若い世代の結婚・出産・子育ての不安を解消し、希望をかなえる。

② 若い世代が小平市に継続して住み、働き、家族をつくることができる環境をつくる。

③ 多くの市民が参加したまちづくりを進める。

（3）小平市の将来展望

①小平市の少子高齢化に歯止めがかかり、昨年１２月に「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」で国が見通しを行ったように平成３２年（２０２０年）に合計特殊出生率１．６程度、平成４２年（２０３０年）に合計特殊出生率１．８程度、平成７２（２０４０）年に２．０７まで上昇すると、２０６０年における小平市の人口は約〇〇万程度となる。

＜検討事項＞

市民意識アンケート調査において、小平市民の希望出生数は２．３２であった。しかし、現行において小平市の出生率は国の平均を下回っており、また、少子化対策は国の政策のもとで取り組むべき課題であるとの考えから、長期的な見通しは国と整合を図ったらどうか。

②若い世代が小平市に継続して住み・働き、家族をつくることができる環境を整備するとともに、多くの市民が活躍できるまちづくりを推進して、将来にわたって社会増の状態を維持する。

③年齢構成のバランス維持により持続可能な地域社会を実現する。

第３回　小平市まち・ひと・しごと創生総合戦略
推進委員会 資料４ 平成２７年１０月２９日（木）

小平市まち･ひと･しごと創生総合戦略について

小平市まち･ひと・しごと創生総合戦略の具体的な施策の検討については、前回（第２回）の小平市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会（以下「推進委員会」という。）において、「結婚・出産・子育てなどの社会福祉分野」「創業・農業・観光など産業分野」の２つの視点から各委員より、小平市の持つ課題や今後の施策案についてご議論・ご提案をいただいた。前回の推進委員会のまとめは資料１を参照。

第４回推進委員会における総合戦略の素案の提示に向けて、今回（第３回）の議論のたたき台となるよう、現時点における基本的な方向性や具体的な施策の案をお示しすることとした。

１．総合戦略の基本的な方向性（案）

○東京都心部から近い場所で、四季折々の雰囲気の中を歩けるグリーンロードや、季節の地場農産物を身近に手に入れることができるといった“プチ田舎”な雰囲気を活かしたまちの空間づくりを推進する。

○小平市の持続的発展と東京圏における自治体の責務として、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる施策を推進する。

○金融機関のノウハウも活用しながら市内における“しごとづくり”を推進し、雇用の創出や地域経済の活性化を図る。なお、しごとづくりにおいては、民間の稼げる力を引き出すことが重要である。

○これまで小平市自治基本条例の制定などを契機に進めてきた地域力・民活力の向上の取組について、引き続き推進していく。

○小平市の情報発信（シティープロモーション）を広げ、市民の愛着が深まるような施策を推進する。

○市内には多くの教育施設があり、特色のある大学も多い。小平市の地方創生においてもこれらを貴重な資産と位置付け、一層のまちづくりにおける連携を推進する。

⇩

小平市のまち･ひと･しごと創生総合戦略
「市民がいきいきとした“プチ田舎”なまちづくり」

2. 総合戦略の基本目標（案）

１の基本的方向性及び前回までの推進委員会のご意見などを踏まえた、現時点におけるたたき台としての小平市まち・ひと・しごと創生総合戦略における基本目標（案）は次のとおり。新たに取り組んでいく具体的な施策についての現時点におけるたたき台としての方向性については次頁を参照。

なお、既存の施策についても、小平市の地方創生に資するものについては本戦略に位置づけるものとし、基本目標にはそれぞれ数値目標を設定していく予定。

（1）基本目標①　住み続けたいまちの空間をつくる

既存施策の例）観光まちづくりの推進、小平ブルーベリーのブランド化の推進、地産地消の推進、援農ボランティアの育成、都市農業経営パワーアップ事業（東京都補助事業）、用水路の親水整備、小平ふるさと村・平櫛田中彫刻美術館の運営、大学との連携（こだいらブルベリーリーグ）など

（2）基本目標②　若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

既存施策の例）保育園の運営・整備、学童クラブの運営・整備、子ども広場事業、ファミリー・サポート・センター事業、ハローベビークラス事業、妊婦健康診査等事業など

（3）基本目標③　地域力・民活力の高いまちをつくる

既存施策の例）店舗リフォームの補助、市民活動公募支援事業、スポーツボランティアの育成（東京五輪関連）、耐震化の促進など

＜国・東京都・小平市の総合戦略における基本目標＞

国の基本目標	東京都の基本目標（仮）	市の基本目標
＜基本目標①＞ 地方における安定した雇用を創出する ＜基本目標②＞ 地方への新しいひとの流れをつくる ＜基本目標③＞ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる ＜基本目標④＞ 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する。	＜基本目標①＞ 2020 年東京五輪、国際都市、経済活性化等に関する事項 ＜基本目標②＞ 少子化・高齢化問題、雇用、働き方等に関する事項 ＜基本目標③＞ 安全・安心な暮らし、まちづくり等に関する事項	＜基本目標①＞ 住み続けたいまちの空間をつくる ＜基本目標②＞ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる ＜基本目標③＞ 地域力・民活力の高いまちをつくる

３. 総合戦略における新たな取組等の方向性について（案）

前回までの推進委員会における議論や人口ビジョン策定のための市民意識アンケートの結果などを踏まえ、既存の個別事業計画などに基づいて実施している施策以外に、小平市まち・ひと・しごと創生総合戦略において新たに実施又は拡充する取組としては、次のようなものとする。

小平市の目指す地方創生総合戦略「（仮題）市民がいきいきとした“プチ田舎”なまちづくり」

＜基本目標①＞　住み続けたいまちの空間をつくる

☞ 農のあるまちづくりの推進のため、市内農産物の生産・流通拡大に資する取組、農産物のブランド化などの取組、市民が農業にふれあうための取組などについて市が支援の実施又は実施の拡充をする。具体的には、来年秋にリニューアルオープンする予定のＪＡ東京むさしの農産物直売所や農家が個別又は共同で行う直売所機能の開設等に対して支援を行う他、体験農園など市民が農地とふれあう機会を拡充する。また、意欲ある農家が取り組む農産物のブランド化や地域外への出荷の方法についても検討を行う。

☞ 市民が主体的となって取り組む観光まちづくりを市が支援することで、交流人口の増、地域経済の活性化、市のイメージアップ、市民の愛着の深まりにつなげる。具体的には、現在設立に向けて準備を進めている（仮称）小平観光まちづくり連絡会の支援を通じて、市民主体による情報を発信し、まちの魅力を広く知ってもらうとともに、“歩くまち小平”としてのモデルコースの設定などの取組を推進する。

☞ 小平市の特徴の１つである大学が多い特性を活かし、大学との連携によるまちづくりの推進や、大学が取り組む地域のまちづくりに資する活動への支援を推進する。具体的には、大学との連携による産業振興計画の策定や東京オリンピック・パラリンピックを契機とした取組について大学に対して連携を働きかけるとともに、大学が実施する地域の居場所づくりなど地域福祉の向上などに対して支援を行う。

＜基本目標②＞　若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

☞ 妊娠期から子育て期にわたるまでの様々なニーズに対して総合的相談支援を提供する「子育て世代包括支援センター」を設置し、必要に応じて支援プランを作成するなど切れ目のない支援を行う。

☞ 小平市、市民団体などが発信している子育てに関する情報について、インターネットを介して一元化して情報を提供する仕組みを構築する、あるいはその取組を行う市民団体を支援する。

☞ 子ども・子育てに関して優れた提案や取組を行う市民団体や大学などに対して市が支援や連携をする。

＜基本目標③＞地域力・民活力の高いまちをつくる

☞ 金融機関のノウハウも活用し、意欲ある市民が行う創業のための市の支援を拡充し、地域におけるしごとを創出する。具体的には、個別相談、創業セミナー、創業塾、個店の出店支援などを通じて、女性のニーズも高まっている創業を支援する。

☞ 地域における「稼げる力」を引き出すため、意欲ある中小企業者などが取り組む商品開発等について行う市の支援を拡充する。（平成２７年度開始事業）

☞ 高齢化に伴って独居高齢者などが増加することが予想されることから、地域における見守りを推進するための取組を推進する（平成２７年度拡充事業）。

☞ 地域資源を活かしたコミュニティビジネスなどに対して支援し、小さくても地域に合った自立的な取組をする事業の積み上げを図る。

小平市まち・ひと・しごと 創生委員会

委員 多田 優子

地域の結びつきを強める
地域の人材を生かす

1. 空き家　空き店舗の利用

・地元の農産物や手作り小物、手作りパン、ケーキなどを販売する町カフェ（仮称）で飲食や買い物をしながら地域の人と交流していく居場所作り。
（学園坂タウンカフェ参考）

・ブックカフェ
読み終わった本を持ちより、小さな町の文庫として本の貸し出しや お茶を飲みながら本にふれるスペースをつくる。
絵本をおいて小さなお子さんづれのお母さんや放課後は小中学生も来れるようにする。
（安心してあそべる場所として）

・まち塾（学習教室）
一般の塾は月謝が高く悩む親も多い。
地域の教育現場をリタイヤされた方や大学生などの学習支援

2　お店や保育園、老人介護施設などの利用

園や施設と方とふれ合う機会が少ないので
ふれ合いデーなどを設け、子どもと一緒にあそんだり
高齢者の方とお話するなどして、お互いの理解を
深めていく。

又、ある地域のマクドナルドと市が協力して
お店を地域の居場所作りとして開放し、
サークル活動などできるようにするとのこと。
今後もそういうことが増えていくのでは…

以上。